

1

特集 フィジカルアセスメントの基本と実践

循環器ナースに必要な フィジカル アセスメントとは



政岡祐輝 (国立循環器病研究センター 副看護師長, 集中ケア認定看護師)

point

- 循環器系の変調は全身へ波及するため、的確なフィジカルアセスメントが求められる！
- フィジカルアセスメントには、収集する力・判断する力・推論する力・伝える力が必要となる！
- フィジカルアセスメントは、患者さんに必要な看護ケアを考え、実行・評価するために必要不可欠な能力である！

はじめに

フィジカルアセスメントは循環器ナースだけに求められる能力ではなく、すべての看護師に必要な能力です。本章では循環器ナースにとっての必要性を説明し、フィジカルアセスメントの重要性を再認識してもらいたいと思います。また、フィ

ジカルアセスメントと一言でいっても、実際に行うにはいくつかの能力が必要となります。本章では、これらの能力を4つに分けてわかりやすく説明します。きっと、フィジカルアセスメントの力を高めるヒントが得られることでしょう。

循環器ナースにとっての フィジカルアセスメント (図1)

「フィジカルアセスメント」とは、身体診査技術を用いて、身体の形態機能を評価し、「生きている証の機能評価(バイタルサインズ[呼吸/循環]など)」と「生きていくための機能評価(運動器/感覚器/認知機能)」¹⁾をアセスメントすることです。フィジカルアセスメントを行う目的は、①患者さんの状態を把握・評価し、緊急度や重症度を判断すること、②必要な看護ケアを考え実行し、さらに実行したケアを評価することなどです。

フィジカルアセスメントという能力は、循環器ナースにだけ必要な特別な能力ではありません。しかし循環器系は、心臓と全身の血管から成り立ち、生命維持に必要な血液を全身の組織に送り届け循環させる器官です。循環が悪くなれば呼吸不全や腎不全に陥ることもあり、脳への循環が悪くなれば低酸素脳症、脳の血管が閉塞すれば脳梗塞に陥るといったように、全身の器官に影響が出るのが循環器系です。循環器系の疾患は、ささいな

変化を見逃すことで重症化したり、急変したりしやすいので、重症化や急変の回避・予防を行うためにフィジカルアセスメントは欠かせません。また、画像や検査所見から推測される病態をより正しく確実なものにしたり、他の病態との鑑別を行ったりするのにもフィジカルアセスメントが必要となります。以上のようなことから、循環器ナースにとって必要不可欠かつ重要な能力の1つが、フィジカルアセスメントだといえます。

臨床では、対象の健康状態を把握するために「フィジカルアセスメント」での身体の状態の査定を単独で行っているわけではありません。フィジカルアセスメントを行うと同時に、心理的・社会的アセスメントを統合した「ヘルスアセスメント」(図2)を行いつつ患者さんの日常生活行動レベルを把握し、今後の患者さんの状態や取り巻く状況の変化を推定し、適切な看護ケアを行います。

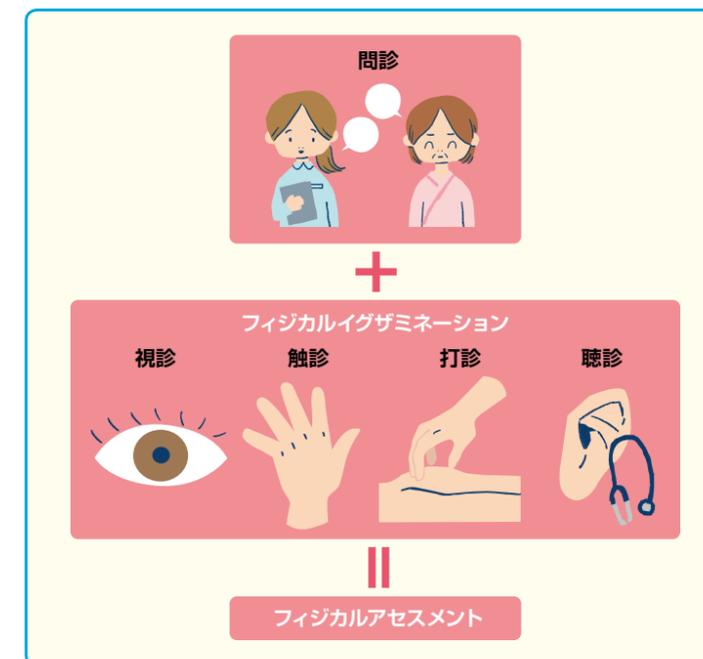


図1 フィジカルアセスメント

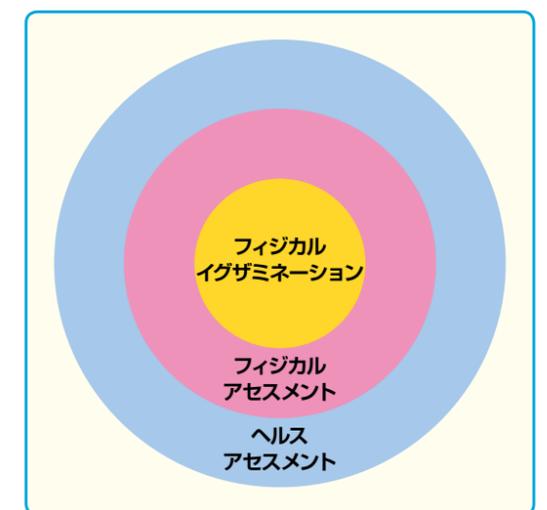


図2 「フィジカルイグザミネーション」と「ヘルスアセスメント」の関係 (文献2より引用)